

会 議 録（１）

会議の名称		第二次桶川市都市計画マスタープラン 及び桶川市立地適正化計画の策定に伴う住民説明会 【川田谷生涯学習センター】
開催日時		令和６年１２月２０日（金） １４時３０分から１６時３０分まで
開催場所		川田谷生涯学習センター 視聴覚ホール
参加者		参加者：３名
事務局職員 職名及び氏名		桶川市 都市計画課 （課長）朝香、（副課長）岩崎、（係長）清水、（主事）杉山 アジア航測株式会社 吉田、鈴木（コンサルタント）
会 議 事 項	議 題	・都市計画マスタープラン及び立地適正化計画について ・都市計画マスタープランについて ・立地適正化計画について ・計画の進行管理 ・今後のスケジュール
	決定事項等	
	項	令和６年１２月６日から令和７年１月６日までの期間に実施しているパブリック・コメントにおける計画（案）の内容について説明を行いました。
配布資料		○第二次桶川市都市計画マスタープラン 及び桶川市立地適正化計画の策定に伴う住民説明会「説明資料」

会 議 録（２）

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
１ 開 会	
司 会	ただ今から『第二次桶川市都市計画マスタープラン及び桶川市立地適正化計画の策定に伴う市民説明会』を開会いたします。 本日はお忙しい中、御参加いただき、誠にありがとうございます。私、本日の司会をさせていただきます、桶川市都市計画課の岩崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 本日出席している職員を紹介させていただきます。都市計画課長の朝香です。都市計画課の清水です。同じく杉山です。また、本計画の策定にあたっての会議運営支援として、「アジア航測株式会社」様にお越しいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。 本日の説明会は、資料の「次第」に沿って進めさせていただきます。また、会の終了は、質疑応答を含めて約１時間３０分程度を予定しておりますので、御協力のほど、よろしくお願いいたします。 なお、議事録を作成する都合上、録音をさせていただきます。また、記録のため、説明会の様子を個人が特定されないような形で写真撮影させていただきますので、あらかじめご了承ください。撮影した写真は計画書などの報告に掲載する場合がございます。
２ あいさつ	
司 会	それでは、次第２『あいさつ』でございます。都市計画課長の朝香より御挨拶申し上げます。
課 長	あらためまして、都市計画課の朝香でございます。本日は大変お忙しい中、説明会に御参加いただき、誠にありがとうございます。 桶川市では、昨年度より、平成９年に策定した現行の都市計画マスタープランについて、計画期間である３０年間の経過することから、上位計画の改定や社会情勢の変化に対応するため、次期の計画の策定に向けての作業を進めております。また、これに併せて、人口減少や少子高齢化に対応した持続可能なまちづくりの実現に向けて「立地適正化計画」も新たに策定する予定でございます。 この両計画につきまして、住民の皆様には御意見を伺い、より良い計画を作りたいと考え、本日説明会を開催させていただいたところでございます。普段聞きなれない用語等も出てくるかとは思いますが、できる限りわかりやすく説明しますので、今回の策定内容について、御理解いただければ幸いです。 結びとなりますが、今後とも本市の都市計画行政への御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。
３ 説明事項	
＜別紙参照＞	
４．質疑応答	
司 会	それでは、次第４『質疑応答』の時間とさせていただきます。
参加者	都市計画審議会では１１月１９日に説明をしたかと思えます。審議会での意見について説明していただきたいです。市でつくった計画を自分で評価しているみたいな感じだから、本当にやりたいことは書いてないなという感じはあります。
市	１１月１９日の都市計画審議会での意見ということで、よろしいでしょうか。
参加者	市役所の意見ではなくて、審議会委員の意見ということをお願いします。ま

	た、議事録が本来だったらこの説明会の前にできていなければならないのではないのでしょうか。審議会の意見を載せないで、市が自分で説明して自分で作った計画を評価しているようなものだから。
市	現在、市のホームページに掲載したものを映し出しますので、少々お待ちいただけますか。こちらがホームページの都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の説明ページに、１１月１９日の都市計画審議会からいただいた意見をまとめた資料となっております。１５ページございますので、本日はこの中で特徴的なものを説明させていただいたところがございます。
参加者	私は実際に傍聴しましたが、桶川市の戦略がない、要するに意味不明で何が言いたいかわからないということを言っていたかと思います。
市	審議会での御意見でいただいた、戦略についての対応について説明します。例えば、都市機能誘導区域が８００メートルの範囲では少し広いのではないかという意見がありました。戦略を持ってやっていかないと、近いところではなくて、立地のしやすい周辺部にばかり都市機能施設などを建てられてしまうことになるため、戦略がないといけないという御意見をいただいたところがございます。 本市の対応としては、徒歩で容易に移動できる３００メートルの範囲を誘導優先エリアとして市独自に設定することで、まずは中心からやっていこうと考えたところがございます。 もう一つは、青線で囲った居住誘導区域の中で、黒い点線で囲われている災害イエローゾーンとなる浸水想定区域については、市の独自のエリアとして防災・減災重点対策エリアを設定し、重点的な防災・減災対策により住民の安全性向上を図ることとしたところです。大きくこの２つが委員からいただいた意見における対応となっております。
参加者	大きなところ２つというのはなんですか。
市	２つというのは、居住誘導区域の防災・減災重点対策エリアの件と、都市機能誘導区域の誘導優先エリアの件です。
参加者	あともう一つ言っていたのは、これは今の段階だと完成度が悪過ぎるねということで、３月は無理なのではないかという話がありました。結局何をやるかわからないという話かと思います。また、今回を逃すと、桶川市は変わらないと言われていたと思いますが、計画の原本を見たら長過ぎちゃって、要するによくわからないです。 もっと言うと市民アンケートの課題など市民の意向というのが全然反映されてないように思います。５７５件の意見があって、市長が要望をお聞かせくださいと言っているけど、詳細な課題が本文に全然上がっていないように思います。
市	では、最初から説明させていただきます。
参加者	私が一番言いたいのは計画書本文の中の３３ページ、市民意向が一般的なことしか書いていないです。本当は、５７５件の自由意見があり、全部で４７ページもあります。みなさんきっちり書いていて、一番大きいのは駅東口のことが随分書いてあります。こういう市民意向が計画に掲載されていないというのがそもそもおかしくないかということです。
市	では、市民意見、こちらの自由意見について、どのように反映したか説明をいたします。
参加者	どのように反映したかではなくて、計画書に書いてないと、市の職員の頭の中だけに残っていても意味がないです。
市	アンケートの自由回答５７５件を全て１個１個整理した上で、主な意見として区分し、それぞれまとめています。これが先ほどの市民意見のページをまとめたページにも反映しております。

参加者	意見を全体的にまとめちゃったから、何を言っているか分からなくなっちゃったかと思います。
市	計画書の中では、例えばこの市民アンケートの自由意見については、特に交通環境や駅東口、駅周辺整備に関する意見を多く御意見をいただいていることをまとめて整理しています。
参加者	その意見をこんな数行にまとめちゃっていいのかと思っています。計画書は全部で100ページぐらいあるのに、数行になっています。
市	計画書としての構成がありますので、計画書には自由回答の個別意見は入れていない状況です。
参加者	市長がまちづくりとして要望をお聞かせくださいと言っているわけです。それをどういうふうここに載せるかというのが、やはり一番肝心だと思いますが、それを省略して何だか分からない計画書になってしまいます。とにかく3月策定は無理ではないのかというのが会長の意見だったと思います。
市	審議会からの御意見とその対応につきましては、都市計画審議会終了後、ホームページに掲載させていただいております。これらは、都市計画審議会の委員全てに送らせていただきました。また、個別に御意見をいただいた会長にも連絡させていただき、この対応で大丈夫ですということで御理解いただいております。その上で、パブリック・コメントを進めさせていただいております。
参加者	会長が変われるチャンスは最後で、桶川市が変われるチャンスは、この都市計画マスタープランですよと言っていました。それはみんな聞いたでしょう。
市	承知しております。
参加者	ラストチャンスだから、計画を1年延ばしてもいいと言うように聞きました。そういう意見だったかと思います。
市	そういった御意見をいただいたので、その意見に対してこう対応しますということを、計画書の中に入れさせていただき、ここまでの話を会長にさせていただいた上で、現在パブリック・コメントを進めています。会長からそういった御意見もあったところですけども、こういう戦略を持って本市は進んでいくということを示させていただき、会長に了解をもらった上で今日に臨んでいるということです。
参加者	桶川市が会長に説明してこうなりましたということですか。
市	ホームページにいただいた意見に対する対応表を掲載しています。
参加者	議事録に全部載せてもらいたいです。アンケートの自由意見が575件あってみんな真剣に書いています。その重みというか、例えば「やはり東口を優先してほしい」とみんな言っています。だから5年間は東口を優先して、ほかは一切やりませんというような、それぐらいのことが方針だと思います。
市	具体的な内容は個別計画で対応していき、地域全体でどういったまちづくりをしていくのか、大枠の方針を示すのが都市計画マスタープランになります。
参加者	それはいいですよ。だからまとめちゃうと何だか分からなくなってしまう。やはり東口を何とかしてもらいたい。このまま行ったら駅東口はまた10年かかっても変わらないと思います。
市	その辺はこれから本市がどう進んでいくかを見ていただければと思います。今の御意見としましては、議事録を残すことと、東口の件を10年以内に早期に進めてほしいということでよろしいでしょうか。
参加者	駅周辺は、10年以内でなく5年以内に進めてもらいたい。優先順位を800メートルから300メートルとして、駅から離れているところではなく、駅周辺を早期に進めてもらいたい。
市	今回市が示している300メートルの範囲を優先的に誘導するということに関して、賛成の意見という御意見かと思います。
参加者	だから予算を具体的に5年間は駅東口に全部投入します、皆様ごめんなさい

	ねというぐらいの覚悟を示したほうがいいのではないかということを言っているわけです。
市	駅東口の早期整備、事業実現に向けて進めてまいりますので、御理解賜りたく存じます。ほかにございますか。
参加者	客観的に見て、例えば中山道を走っていたら上尾と北本と比較すると、桶川がゴーストタウンになっているように感じます。高崎線沿いのベッドタウンであり、首都圏まで30分から40分以内の中で、これだけ東口の開発が遅れています。失礼だけれども、予算がないのか、能力がないのか、やる気がないのか、ほかの市町村ができてなぜ桶川ができないのかと思います。40年ぶりぐらいに東口に行き、今の寂しい状況を見て私は本当にショックを受けました。桶川駅が他の市町村に比べてあの状態です。ましてや、これからインフラの値段も上昇していく状態の中で、桶川市にそれだけの財政があるのかと心配もしたりしている昨今です。 あと説明を聞いていて、日出谷、坂田を区画整理してきて、外部の人が移住しやすく、住みやすいシティをつくるというのは分かります。しかし、川田谷小学校は1年生が18人しかいないのです。いいところを伸ばすことも大事だけど、私のふるさとである川田谷がこういう状況になっている。市街化調整区域がほとんどですけども、上尾道路沿いは市街化調整区域を一部解除する必要があると思います。農地法等で色々な縛りがあって難しいかもしれませんが、川田谷や加納等を含めて、少子高齢化が進むのも分かりますけど、子供たちがいないということはその子供たちのお父さん、お母さんも少ないです。そうすると、この川田谷の整備が進まない事態になっているので、私たちはせめて市街化調整区域を少し解除するとか、アパートや宅地が少し建てられるような環境をつくっていかないと、子供たちがいなくなっていく、5年、10年以内の中で、学校がなくなっていくというのが予想できることがあまりにもショッキングです。サラリーマン生活をしていると、そういう地元のことが全然分かっていませんでしたけど、かなり過疎化が進んでいるという部分も含めて、桶川市には考えていただきたいと思います。 重複しますが桶川駅の東口を見ると、誰が見ても桶川駅は遅れているなど思うと思います。鴻巣にできて、北本にできて、蓮田にできて、白岡にできて、桶川にできないのはなぜでしょうか。反対者はどこの行政にもいるわけですから、そこを断固とした姿勢で開発を進めてほしいです。東口駅前の通りにある商店の人たちはお店を壊したほうがいいのか、どうしたらいいのか、行政の方針が決まっていないから宙ぶらりんな状態になっていることが見て分かります。今更もっと真剣にとは言う気もありませんけども、東口があんな状態だここに書いてある「みんなが住みたいまち」とかそういうのは、兵庫県の明石市長みたいに熱があるような人がいないとちょっと桶川市は無理かなとそういう目で見ております。 いいところを伸ばすことも大事だけど、過疎化とか少子高齢化によって、衰退している地域に対しても、もう少し重きを置いていただいて、行政活動を進めていただきたいと思います。以上です。
市	今の御意見は、1点目が中山道整備のこと、2点目が駅東口や南小学校跡地のこと、最後は川田谷を市街化調整区域から一部解除できないかということによろしいでしょうか。
参加者	川田谷だけではなくて加納も含めて考えてほしいです。例えば、川田谷小学校は日出谷小学校と合併するとかという話も聞きますけども、1年生、2年生の子が3キロも4キロも歩けるわけがないです。マイクロバスを使えばいいという問題ではないです。そのためには地域の住人を増やす。住人を増やすためには市街化調整区域を市街化区域に変えていかないと、人間がいけないことには

	地域が盛り上がりません。
市	まず、駅東口の関係で近隣に比べると中山道や駅前の整備が進んでいないのではないかとありますが、現在本市では、市施工で駅東口駅前広場と県施工で駅東口通り線の整備を進めているところです。県と言いましても、本市の中での整備となりますので、地権者への交渉は同席しながら協力して進めているところです。上尾市、北本市などと比較して、中山道周辺の開発があまり進んでないように見えるというところの特徴としては、本市の場合は駅から中山道までの距離が他市町に比べておよそ2倍から3倍の距離感があります。このため、移転などの事業に協力いただく地権者も多くなってくるというところがあります。 中山道の整備につきましても、駅東口通り線と併せて道路拡幅を進めていただく予定となっています。これまで県道12号線と言いまして、坂田加納団地の前の八雲神社があるところの辺りの県道整備をずっと進めてきました。本市の中で、あちらもこちらでも県道整備をするということができないというお話もありまして、中山道の整備が遅れてしまっているという現状はあります。 駅東口については道路整備に併せて、南小学校跡地の開発も動き始めているところです。なぜ南小学校跡地の開発が進まなかったのかというところで地理的要件があります。駅東口駅前広場はロータリー構造となるため、南小学校跡地に出入りする道路がなくなってしまう、開発事業者が何かをしようと思ったときに道路付けがなくなってしまうという課題があったところです。それを解消するために、現状4mの道路を12mに拡幅し、南小学校跡地に出入りができる道路の整備を進めています。こういった作業を進めながら利活用を図っていきたいということで、市民アンケートや企業ヒアリングを行いました。平成25年頃にもヒアリングを行ったのですが、道路の接続やインフラの整備が整っていない状況では事業提案できないというお話をいただいたところです。 このため、本市では道路等のインフラ整備を優先して進めており、駅東口駅前広場の中に雨水管や上下水道管を整備すれば、整ってくるというところが見えてきたところです。 令和6年度のスケジュールとして都市計画マスタープランを策定し、その後道路用地が確保されれば、民間活力導入可能性調査や事業手法が決まり、実施設計して建物が建ってくるような作業に進めるような形で準備を進めているところです。
参加者	要するに桶川市の意思というか、考え方が決まってないからというものもあるみたいですが、スケジュールが具体的に決まってないです。アンケートをやって桶川市はこうしますというような、結果的に桶川市はこうしますというのがないです。こういう意見がありました。あと南小学校跡地の辺りは住宅地ですが、いつ商業にするのでしょうか。
市	事業手法がまだ決まってないのと、南小学校跡地に何を持ってくるかによって、今のままの用途地域でもできる可能性もあります。そこについては事業者の提案を受けながら検討してまいります。
参加者	そういう考え方が東口整備の進まない理由です。その考え方を変えないと、そこが一番だと思います。
市	ここで結論が出る話ではないです。御理解賜りたいと存じます。
参加者	桶川市が結論を出さなくてどうするのという話です。例えば、5年後こういう結論にしました。これで進みます。できなかった理由はこうですというふうにしないと、決めないから結局動かないということですよ。
参加者	桶川市があまりにも遅れちゃっている部分でこれ以上言うことはないの、あとは皆様方、スタッフの方が全力でやっていただければ、それ以外はないです。正直な話、旧中山道を見て、駅東口を見たら、私の同級生も40年前と変

	わってないと思っていますよ。
参加者	逆にひどくなったという感じです。
参加者	市長を含めて、周りの行政ができて桶川市にできないということは、先ほど言ったみたいにお金がないか、能力がないか、やる気がないかですから。いろいろあるでしょうけど、やる気があるならやれると思います。能力の範囲の中でベストを尽くしていただければそれで結構です。 私とすれば、川田谷や加納の過疎化が進んで、子供を送迎すればいいという問題ではなくて、その子供たちだけでなく、40、50歳の人たちも少ないわけです。そうすると、地域の活動や防災活動とか、そういうのに出る人も少ないです。 だからそういうのも含めて、まず家がない。家がなければ移住できません。市街化調整区域の縛りというのがどれだけ大変かを感じています。全部とは言いません。全部市街化調整区域を市街化にすれば、当然固定資産税も上がり、デメリットを被る地主の方もいらっしゃると思いますけども、そういうところもぜひ見ていただきたいです。あと、毎日散歩をしていて空き家が多く、一人住まいが多いです。空き家は民生委員に丸投げしてお任せするのではなくて、事業として民生活動を手伝ってほしいです。 駅の近くが潤えばいいのではなくて、川田谷、加納は工業団地もあるし、道の駅もでき、交通の利便性は結構ベターだと思います。ただ、そこに人が来なければいけないので、行政が市街化調整区域を市街化区域にして、住みやすい、アパートも造りやすい環境にすれば子供も来ると思います。一軒家を建てれば、固定資産税や住民税も入ってくる。そういう部分も含めると、桶川市にとってデメリットはないと思っています。その辺は市だけの問題ではなくて国の問題等もあるでしょうけども、そういうところも、ベッドタウンで首都圏から近いところでも進み始めていただきたいということが、本日の私の言いたいことでした。
参加者	資料の15ページの地域区分図について質問です。 西部田園地域や東部田園地域など、なぜこれがいきなり出てきたのでしょうか。これは初めて出てきたでしょう。第六次総合計画とかにない、西部田園地域にしているのかわからないです。なぜ田園なのか、実際に東部田園地域と言っても、田園ではないです。工業団地とか物流センターがあります。 パブリック・コメントも既に出していますが第六次総合計画の「歩いて暮らせるまちづくり」の中では、既成市街地、坂田地区、日出谷地区と、加納地区、川田谷地区の5つを、生活圏域、要するに生活があるよと書いているのです。今の表現はまるで田舎で江戸時代かという話です。明治か大正に戻るような感じです。だからこの区分はやめてほしいです。これは意図的にこうしているだと思ふのです。先ほど言った300m圏外というのは既成市街地です。だから、この「歩いて暮らせるまちづくり」の中にあえて説明しています。第六次総合計画が5つの区分にしているのに、何で4区分にしているかが疑問です。
市	現行の都市計画マスタープランでは江川の西側を川田谷地域としておりました。今回のマスタープランでは、市域西側の市街化調整区域とされている部分には川田谷地域だけでなく、上日出谷の一部や下日出谷の一部も含まれています。このため、川田谷地域だけではないことをも踏まえまして、西部田園地域と名称を変えさせていただいております。
参加者	住民のとか、全体とか許可を得たのでしょうか。
市	パブリック・コメントや住民説明会、都市計画審議会などの各種会議などで市の案を出し、進めています。
参加者	今回初めて案として出てきたので反対しています。

市	いただいた内容としましては、第六次総合計画では5地区に分かれているため、それに合わせた方が良いのではということだと思います。確かに第六次総合計画では、川田谷地区、日出谷地区、既成市街地、坂田地区、加納地区となっております。 都市計画マスタープランは、第六次総合計画を上位計画として即すものではありませんが、都市計画の基本的な方針を定める趣旨の計画となっておりますので、都市計画の指定状況を考慮することも都市計画の運用指針に示されています。国が示す都市計画運用指針には、都市計画の指定状況や地域別の政策をまとめる上である程度一定のまとまりを持った範囲を区域として定めると示されています。そのような状況も踏まえ、現行の都市計画マスタープランと合わせて4地域としています。
参加者	現行計画は30年前の話です。第六次総合計画が上位計画であり区分を5地区にしているので、本来5つに戻すべきではないでしょうか。
市	理由は先ほど説明させていただきました。御理解賜りたいと存じます。
参加者	川田谷には歴史があります。昔は上尾が村だったときの中心部でした。今でも桶川の半分を占めています。その地名を西部田園地域とすることは、アイデンティティーを全部捨てていることになります。まちはつくるが、住民の歴史は捨てましたという考え方では、まちづくりの本質を分かっているのではないですか。住民に対して失礼だと思います。人が住んでいて歴史があるのですから。区分を5地区に戻し、名前を第六次総合計画と合わせてください。そこまで西部田園地域の名前に拘る理由がわかりません。
市	本市の考えとしますと、都市計画というのは現在の市街化区域と市街化調整区域を基本に検討してきました。
参加者	それは桶川市の論理であって、周辺地域の論理ではないですよ。上尾市も北本市も地名を大事にしています。歴史民俗資料館も過去からの歴史がありますよね。過去の歴史をすべて壊すということでしょうか。歴史や住民の生活を見捨てています。なぜ川田谷が田園都市になるのでしょうか。
市	川田谷を疎かにしているわけではありません。都市計画上明確に区分できる線がなかったところもあり、川田谷と加納を第六次総合計画の土地利用方針図に示している田園ゾーンの名称を用いて定めています。市としてはこの考え方に即した形で地域を定めておりますので、御理解を賜ればと思います。
参加者	桶川の視点でしか話されていません。他の地域の人がここに住みたいという思いや、次世代が桶川に戻ってきて家を建てたいなどの視点ができていません。だから駅中心に歩いてこられないところ、要するに坂田や日出谷は歩いてこられないのです。車や公共交通機関がないと駅まで来られないわけです。そのあたりを一緒にしてしまっているのではないのでしょうか。これでは、上尾市には既に抜かれています、北本市にも抜かれます。北本にはグリコや第一三共バイオ、スバル群馬工場など一流どころの工場もありますよね。だから北本の方が働ける場所、職住があります。
市	複合開発エリアなどでは、働く、雇用機会の場を確保するように努めてまいります。
参加者	そうは言っても、アマゾンの送迎バスが桶川駅に来ていますが、桶川を通り越して川島に行っちゃっています。恥ずかしくないのでしょうか。
参加者	城西大学や埼玉短期大学は桶川駅のロータリーを結構使っているようです。でも、あのロータリーでは少し小さいのではないのでしょうか。
参加者	小さいのと、桶川を通り越してしまっていますよね。三井精機も桶川に前はいました。
参加者	あと、私たち市民は基本金額が高い、安いとは別としても住民税を払っているのです。桶川市の一株主であることを忘れないでください。そこを再認識してい

	ただければと思います。
市	市民の皆様と一緒にまちをつくっていくものだ認識しております。御協力をよろしくお願いいたします。
参加者	説明をいただきまして、ありがとうございます。なかなか難しい2つの計画ということで、皆様、熱い議論があったので大変貴重な時間になったのかなと思います。 2点ほど共通のところで質問させていただきたいです。まず、マスタープランについて、以前は30年間とした中で、今回20年間とした理由というのは何かあるのですか。 もう一つは今のエリア分けにも通ずるところがあると思いますが、第六次総合計画では人口推移を5エリアで推計していますが、今回4つのエリアに対して方針を設けられています。結果的に5つ詳細な人口推移を見ているのに、何でこのようにしたのか説明いただければと思います。
市	1つ目の20年の根拠ですが、現行計画は平成9年からおおむね30年ということで、令和7年までの計画としていましたが、都市計画運用指針の中で都市計画マスタープランや立地適正化計画については、おおむね20年間で考えてくださいというような方針が示されました。以前は30年先なので、長過ぎて都市の目指すべき方向性が違ってしまっていました。30年間の中でバブル崩壊をはじめとして、コロナなど社会情勢が変わることが多くあり過ぎたというところがあって、あまり長いスパンで考えるのではなく、20年というような期間で、その中で5年ごとに見直していくことが運用指針の中で示されたので、20年後の姿を描くような形で考えたところです。 もう1つの4区分の話の中で、例えば市街化調整区域でなく、江川の線で川田谷地域と市街化の西部地域を区分したとしたときに、人口の推計を出すに当たっては、市街化を促進していきましようという市街化区域と、市街化を抑制していきましようという市街化調整区域を混在するような形で人口ビジョンを考えてしまいますと、人口の貼り付き方が違いますので、市街化区域と市街化調整区域というようなところで線引きをさせていただいて、考え方を分けたところです。 ですので、例えば先ほど話にあった市街化調整区域の中でも上日出谷の北部地域と言われる、昔暫定逆線引きと言われた地域、そういったところも含まれているところですけども、同じ上日出谷でも、市街化区域の上日出谷の人口の推計と市街化調整区域の上日出谷の人口推計とは違ってくると思います。そうしますと、適正な考え方が示せないのではないかとということもありまして、市街化区域と市街化調整区域ということで今回は線引きをさせていただいて、人口やまちの未来図を整理させていただいたところです。
参加者	説明としてはわかりました。ただ、5つのエリアに分けて詳細な人口推移が定められたにもかかわらず、4つのエリアに、市街化区域と市街化調整区域にエリア分けして、方針をつくった部分があると思いますが、逆にその詳細の情報を潰しているようなところもあるのではないかと思います。今まで議論があった中で、これから20年というのは非常に大切だと思っております。 そういった中で、先ほど4つの右左のエリアも非常に転換期に来て、この20年の指針というのは非常に大切な中で、疎かにというわけではないですが、より具体的な人口推移を基に指針をつくっていくというのが非常に重要なのではないかなというところで、なぜ4つにしてしまったのでしょうか。 詳細のデータを基により具体的な、先ほど課題として挙がっていた空き家や耕作放棄地の明確な方針も出ていないと思います。立地適正化を進めていく中で、より具体的に両横の地域もしっかりと方針をつくっていただいて、拠点形成を繋ぎ、より具体的なものを示していただければというところです。

	桶川市を分けるのではなくて、一つとしてより具体的に考えていただければと思います。4つに分けるのであれば指針をしっかりとつくっていただきたいです。お二人の意見もそういった内容なのかなと思います。 先ほど強い言葉でも駅東口の話も出ていましたが、これが一番の市民の本当の意見なのかなというところがあります。そこをしっかりと汲み取っていただいて意見を集約して結果的によいものができるようにしていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。
参加者	こういう場は何年に1回設けられるのですか。
市	おおむね5年ごとに見直し等を行い、必要に応じて開催することとなります。
参加者	広報に今回の説明会があると聞いて、今日来ました。私は知人に、もしよかったら金曜日の2時半から農業センターで説明会があると声をかけましたが、仕事の都合により行けないとのこと。桶川市も意図的ではないのでしょうか、平日の来づらい環境をつくったのかなと思ってしまいます。本来ならば、土曜日、日曜日を使ってでも、説明するのが普通かと思います。
市	明日の土曜日にも別会場で説明会を開催します。曜日については考慮し、平日と土日の休日と分けてやっています。
参加者	実際に人数が集まるかどうかはわかりませんが、集まりやすい環境を視野に入れて開催してほしいと思います。
5 閉会	
司 会	最後に、次第5『閉会』でございます。 後日ホームページに、本日の資料を掲載させていただきます。 それでは、以上をもちまして、『第二次桶川市都市計画マスタープラン及び桶川市立地適正化計画の策定に伴う住民説明会』を閉会いたします。 本日はお忙しい中、御参加いただきありがとうございました。